



4月17日の合同練習会の後に、コンサートのプレイベントとして行われた「御花・松濤園で歌う『筑後川』」。およそ370人が、御花の庭園に向かい合唱した。合同練習会には、コンサートの指揮を執る現田茂夫さん（写真左上）も東京から駆けつけた。

團伊玖磨記念『筑後川』IN 柳川 2011

■日時 5月22日(日)、午後の部=午後1時、夕方の部=午後4時
■会場 柳川市民会館大ホール
■入場料 1000円(合唱団・団体500円)
問い合わせは同実行委員会(市生涯学習課文化係、☎77・8832)まで。

團伊玖磨記念『筑後川』IN 柳川 2011 関連企画

北原白秋と團伊玖磨展



團 伊玖磨
(1924 ~ 2001)



北原 白秋
(1885 ~ 1942)

北原白秋の詩集『思ひ出』に影響を受け作曲を志した團伊玖磨。白秋との関わりを7つの章に構成し、写真や資料などパネル70枚で紹介。

場所 柳川市立歴史民俗資料館(北原白秋記念館、矢留本町)

会期 5月23日(月)まで

入場料 大人400円、学生350円、小人150円(北原白秋生家入場料を含む)

問い合わせは、市生涯学習課文化係(☎77・8832)まで。

團伊玖磨記念『筑後川』IN 柳川 2011

5月22日 柳川から 東日本大震災復興の 祈りを込め歌声を届ける

合唱組曲『筑後川』作曲の背景

合唱組曲『筑後川』は、作曲家、團伊玖磨が作曲し、久留米市出身の詩人、丸山豊が詩をつけた。『みなかみ』『ダムにて』『銀の魚』『川の祭』『河口』の5章からなり、阿蘇の外輪山に源を発し、大河となって有明海に注ぐ姿が表現されています。初演は昭和43年12月、久留米市の石橋文化ホール。團自身が指揮しました。発表から43年たった今も歌い継がれています。

この曲には、自然をたたえるときにも恐れる気持ちが含まれています。昭和28年6月に筑後平野を襲った大水害の2日後に久留米を訪れた團は、惨状を目の当たりにして筑後川の恐ろしさを実感したと後に語っています。そして、その恐ろしさを人々の英知で克服し、水害の川を幸せの川に変えたという、人間の凱歌としての思いもあらとも語っています。

團伊玖磨と北原白秋のつながり

團は、柳川が生んだ日本を代表する詩人、北原白秋に大きな影響を受けました。少年のころ父親の本棚にあった白秋の詩集『思ひ出』を愛読。13歳のときには白秋の詩、「あかき木の実」と「朝明」に曲をつけています。後に山田耕筈の弟子になり、本格的に作曲を学ぶことになりましたが、團の心の支えになったのは白秋からの一枚の詩がきでした。

白秋の詩に曲をつけたくて、團は許可を求め手紙を白秋に書きました。1週間後、白秋から「どうぞ」とだけ書かれたはがきが送られてきました。感激した團は、はがきを壁に貼り作曲の励みにしたそうです。

團は白秋の故郷である柳川で、コンサートを開くことを願っていました。その思いは平成13年、柳川市民会館で開催された「白秋のまちの音楽会」で50人で『筑後川』を大合唱します。コンサート本番を控え、柳川で混声合唱団「うぶすな」の団長を務める姉川章二さんは、「全国からたくさんの人たちが『筑後川』を歌いに来てくれます。改めて團さんの偉大さを感じます。さらに團さんが尊敬していた白秋をより大きく感じることができました。今回の震災で参加を断念した合唱団もありました。私たちが心を込めて歌うことで、元気を少しでも被災地の人たちに届けられたらと思います」と話してくれました。

果たされました。コンサートでは、白秋にまつわる楽曲の演奏や思い出話が披露され、團は第2回、第3回のコンサートを開催を望んでいました。しかしそれはかないませんでした。コンサートから50日後、訪問先の中国で亡くなったからです。

祈りの心を歌声に込めて

5月22日に市民会館であるコンサートは、午後と夕方の2回公演で行われます。各公演は3部構成になっており、第1部が「わがまちのうた・わたしたちのうた」と題し、白秋の歌や柳川に関係する曲が披露されます。第2部は「團伊玖磨を歌う」と題し、